

大沼の環境保全に関する環境セミナーの概要（平成19年度）

行事名	環境セミナー2007みんなで守る美しい大沼
開催日時	平成19年10月23日（木） 14:00～16:20
開催場所	南北海道大沼婦人会館 大集会室
主催	北海道
後援	七飯町、森町、大沼環境保全対策協議会
参集者	70名（内訳 一般参加者：27名、関係行政機関等：43名）
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会（主催者挨拶） 北海道環境生活部環境保全課水環境G主幹</li> <li>・18年度意見交換会の概要、大沼環境保全計画について 北海道環境生活部環境保全課水環境G主査</li> <li>・講演「大沼環境改善プロジェクトについて」 （各40分） 北海道教育大学函館校教授 田中 邦明 さん 「いきづく湖沼ふれあいモデル事業について」 函館工業高等専門学校助教 田中 孝 さん</li> <li>・活動事例発表「国際ワークキャンプによる大沼環境保全の取組み」 （15分） 大沼マイルストーン22代表 池田 誠 さん</li> <li>・意見交換等（25分）</li> <li>・閉会（挨拶） 大沼環境保全対策協議会会長 竹田七飯町副町長</li> </ul>
田中教授講演要旨	<p>○渡島大沼環境改善プロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖の富栄養化（湖に何が起こるか。解決法は？ヨシ植栽イカダの試作）</li> <li>・大沼の水質（COD、リンの収支、大沼流域の肥育牧場と頭数）</li> <li>・更新草地の施肥、出水時の川の状況、リンの推定流出量等</li> <li>・更新草地からの栄養塩流出防止対策             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 汚水の発生抑制（①等高線耕作②土作り（厚い土壌層））</li> <li>2. 汚水の河川流入防止（③沈殿池・人工湿地の造成④周辺地との水文分離⑤干涉緑地の活用と造成）</li> </ol> </li> <li>・世界の家畜、穀物生産と日本の農畜産業の未来選択</li> </ul>
田中助教講演要旨	<p>○いきづく湖沼ふれあいモデル事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国湖沼における水質環境基準達成率</li> <li>・「いきづく湖沼ふれあいモデル事業」の事業例紹介（全国）</li> <li>・「大沼における炭素繊維藻場による水質浄化事業」             <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 炭素繊維藻の働き（①水質変動の抑制効果②懸濁物質捕集効果③藻類誘引効果④水生生物の生育環境改善効果）</li> <li>2. 魚類等水生生物の生育環境改善効果</li> <li>3. ヨシ植栽浮島の可能性</li> <li>4. 普及啓蒙活動</li> </ol> </li> <li>・大沼ではこれまでも環境保全対策を実施してきたが、水質汚濁は進行。今後は行政主体の流域対策と同時に地域住民による大沼の湖沼環境改善を目的として市民活動をすすめる必要がある。</li> </ul>

<p>池田さんの 発表要旨</p>	<p><b>○国際ワークキャンプによる大沼環境保全の取組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ワークキャンプの概要・目的</li> <li>・大沼での活動 (ゴミ拾い、森林保全、環境勉強会、水質調査、水質浄化実験(炭素繊維藻、ヨシ植栽イカダ)、地域交流、ホームステイ、提言)</li> <li>・地元の協力を得ながら、今後もワークキャンプを継続していきたい。地元での環境教育にも関わってきたい。</li> </ul>
<p>意見交換要旨</p>	<p><b>○水質浄化の方法について(参加者)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のセミナー以降、1年間の渡島支庁、七飯町の取組みについて →堆肥施設のセンター方式、完熟堆肥の耕種農家への提供についての検討(大沼環境保全対策協議会)</li> <li>→水質の常時監視、特定事業場の監視指導などのほか、この5月に大沼環境保全対策協議会において計画を策定したところ(道環境保全課)</li> <li>・燐が毎年7.3トン流入しているということだが、消化する方策は? →ヨシで回収するには試算上大沼の4分の1の面積が必要で現実的ではないが、環境教育としてやっている。等高線耕作等で燐の流入を止めれば大沼の水質はきれいなレベルになる。(教育大)</li> </ul> <p><b>○畜産対策について(大沼漁協)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は7月の豪雨の前までは3mの透明度があったが、豪雨のあと1週間でアオコが発生した。大雨が降ると(草地の)表土が流れ込むので、発生源対策に行政が取り組んでほしい。</li> </ul> <p><b>○大沼の水の流れについて(参加者)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の大沼の水の流れがどういう形になっているの教えてほしい。 →平均すると、年4回入れかわる。入る水がきれいになれば一気にきれいになるが、そこに沈んでいる汚れが流れていくには何年もかかる。(教育大)</li> </ul> <p><b>○大沼環境保全計画の目標について(参加者)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大沼環境保全計画をこの5月に見直したという事だが、具体的な到達目標は何か。 →計画では水質保全目標として環境基準を設定している。COD(化学的酸素要求量)は3mg以下、全リンは0.03mg以下としており、基準達成に向け大沼環境保全対策協議会の構成員が連携して、取り組んでまいりたい。(道環境保全課)</li> </ul> <p><b>○産学連携について(参加者)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函館には北大水産学部があり水質を研究している先生方がおられる。教育大の先生、高専の先生をキーマンとして、道南の大沼らしい環境のシステム作りのため、産学連携の組織を立ち上げて、バイオの問題について取り組んでほしい。</li> </ul> <p><b>○計画の見直しについて(教育大)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の環境法制は主に濃度規制であるが、千葉県手賀沼など10カ所の指定湖沼では、総量規制をしている。大沼で総量規制の目標を設定するなど計画の見直しは可能だと考えるので、協力していきたい。</li> </ul> <p><b>○計画の見直しについて(大沼環境保全対策協議会)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画は5年での見直しも可能なので、状況を踏まえ、先生方の意見を聞くなどしてよりよい計画にしていきたい。</li> </ul>

アンケート  
結果の概要

回答：53名（回収率75.7%）

○大沼に望む姿（2つまで選択可）

- ・水草、草花、樹木、野鳥など多様な野生生物が息づく場所 36名
- ・美しい景観の中で人々がくつろぎ、安らげる自然公園 33名
- ・水遊びができ、水に親しめる親水空間 10名
- ・ワカサギ、エビなど豊かな水産資源に恵まれた漁場 7名
- ・レクリエーションやスポーツを楽しめる場所 6名
- ・道内外からたくさんの人々が訪れる観光地 5名
- ・その他 = 2名

○環境保全の推進上、これまで以上に住民協力を得るために必要なこと

- ・地域住民や関係者の連携による実践活動の推進  
地元小学生対象の湖水浄化ボランティア活動の推進等  
行政と住民の協働によるボランティア・サポート・プログラム  
地元住民が自ら主催して活動する場の設定 など
- ・生活排水対策、農業対策など  
堆肥製造施設や浄化槽の設置  
産業政策の実施による牧畜農家・水産業者との共栄  
農業家に対するセミナーの開催 など
- ・啓発・イベント・環境教育など  
セミナーに地元の人に関心を持って参加すること  
地元小中学校現場での環境教育の実施  
他町村の前にまず地元住民に対する啓発活動 など
- ・その他  
汚染実態の周知（世論の喚起）  
長期的展望への理解  
住民の意識高揚はもとより、各行政担当者のレベルをあげるべき  
など

○環境保全に関する意見、要望等

- ・国費による堆肥処理施設の整備
- ・沼の中も外もゴミが多すぎる。住民が大沼をきれいにしようとする心をやしなってもらいたい。
- ・湖沼保全も大事だが、わが国の農業保全も大事である。両立できる施策の構築を期待する。
- ・汚濁を解消して、自然豊かな大沼として観光価値を高めたい。
- ・富栄養化原因のリンの削減目標を数値として示していくことが必要。
- ・農地等からの肥料成分の流出と大沼への流入によって、水質の悪化を招くので、下水、排水の整備が急務と思われる。そのために汚染のマスバランスを把握すべきである。

など